



私が思う、  
北区の魅力・好きな場所

あさぶ商店街には、地域を挙げて子どもたちを守る温かさや懐の深さがあります。商店街以外にお薦めの場所は「安春川」の散策路。春と秋の風景がとりわけ好きで、よく散歩コースにしています。人工的に造られた川ですが、鯉も泳いでいますし、春先にはカモの親子の姿も見られるんですよ。

NPO法人 麻生キッチンりあん  
理事長 西本 香奈江 さん

北区麻生で生まれ育つ。2016年、麻生商店街振興組合に入組。以来、麻生キッチンりあんの中心メンバーとして活躍中。

## コミュニティカフェ 麻生キッチンりあん

地域の人に守られる安心感を

子どもたちに感じてほしい。

困ったらいつでも駆け込める場所に。



ハロウィンイベントは子どもたちの希望で2021年から開催。2022年は小学1年から中学2年まで13人が参加しました

「トリックオアトリート、お菓子をくれなきゃいたずらするぞ」。あさぶ商店街を子どもたちが巡るハロウィンイベントを前に、合言葉を練習する元気な声が「麻生キッチンりあん」に響きます。思い思いに仮装した子どもたちの輪の中に、理事長の西本香奈江さんの優しい笑顔がありました。

りあんは麻生商店街振興組合がベースとなり、多彩な活動をするコミュニティカフェ。当初、事業の2本柱は、ひとり親家庭の子ども「学習支援」と、学生や地域の人が手作り料理を出す「日替わりシェフ」でした。商店街入組をきっかけにりあんの活動に加わった西本さんは、非行防止と治安維持のため、ひとり親家庭に限らず子どもを地域全体で見守り、食事を提供する「子ども食堂」を提案。スーパーの駐車場にたむろしてタバコを吸う中学生を目撃して危機感を抱いたからです。「私は生まれも育ちも麻生で、子どもの頃は地域の方がすごく声を掛けてくれて、守られている感覚がありました。養育の社会化を商店街で担えればと

どもは家庭で育てるもの」と反対する組合員もいましたが、「活動を続けるうちに理解してくれて、寄付までいただきました。感動しましたね」。

りあんが主催する「駄菓子屋さん&こども・若者の居場所」や「介護者のつどい」をはじめ、スペースを提供している不登校の親の会など、今起きている状況に対処するうち、関わる事業は増えていきました。事業がない日は閉店しますが、「ごまごまな事情を抱えた人がいます。できれば毎日開けて、子どもや困っている人がいつでも駆け込める場所にしたい」。今後は子どもシエーターや若年女性支援の取り組みも検討しているそうです。

NPO法人 麻生キッチンりあん  
北区北39条西5丁目2-12  
TEL. 011-707-9923  
(麻生商店街振興組合 西本さん)  
<https://asabu-rian.com>